

## 事例研究報告

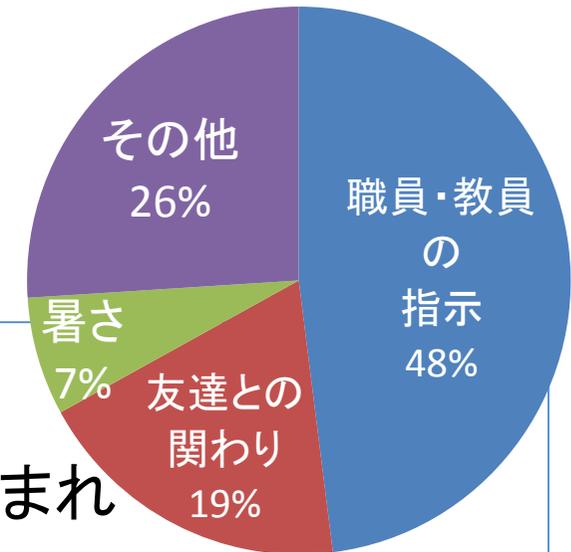
**特別支援学校高等部の生徒に  
適切に授業参加するスキルを教える**

## 生徒の実態

–イライラしたら、暴言，物に当たるといった行動に出る  
つぶやきから大声まで

### 暴言リスト

- あっちいけ，触るな，こっち来るな，出て行け，だまれ
  - こっち見るな
  - ○○女，○○男
  - うっさいわ，～するな
  - やっつけてもいいですか，殴ってもいいですか
  - 人に対して「うわ～」
- \* 人の悪口，人に対しての命令口調，望ましくない言葉(笑顔でもその対象となる)



暴言の原因

## 教員の考え

「暴言なしで授業に参加して欲しい」

「適切に人と関わってほしい」



## アドバイザーからの助言

「違和感をクリアにする」

「授業に出たいという仕組みを作る」

「望ましい行動のみを増やす」

ことから始めましょう。



# アドバイザーの助言その1

「違和感をクリアにする」

- ・成育歴
- ・服薬
- ・就学指導の情報
- ・家庭の状況
- ・社会福祉施設での状況



などの情報収集



- ・本人，社会福祉施設，母から情報を聞き取った
- ・教育委員会に協力してもらい情報を得た

# アドバイザーの助言その2

「こっちのレールにのせる」  
= 教員の支持に従えるように  
= 教員の要求に対し、自主的にやりたくなるよう  
な仕組みを作るのがプロ



@MAJ-3152171



- ・ 暴言をはいてまで授業に出てもらわなくてよいという姿勢に立つ
- ・ 授業参加への拒否が出ないように、スモールステップにする
- ・ 授業に出たいと思わせる仕組みを作る  
(好子を探す, 好子を作る, 好子らしく仕立て上げる,  
好子として作用するよう家庭や社会福祉施設と連携する)



# アドバイザーの助言その3

暴言への対応

- 暴言は相手にすると増える
- 反応しない



望ましい言葉のみを増やす

「スクリプト法」

暴言が見られたとき、望ましい言い方を教員が文字で提示し、本人に読ませる

えなりかずき風スクリプト 記録

月 日 ( ) 校時：授業 ( ) 記入者：

スクリプト

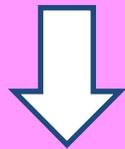
僕は、静かにしてほしいです

言えた 言えない

## 指導目標の見直し

学年教師団で共通理解をはかる

- ・指導の手続き(スクリプト・チェック表)
- ・記録の方法
- ・授業ごとの指導担当教員/個室の見守り教員 etc.
  
- ・個室(私たちの部屋)の準備



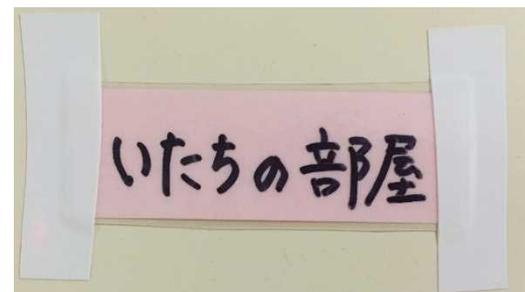
手立てを統一し、一貫した指導を行った

## ステップ1:スクリプトの導入

	ステップ1
指導時期	11月2日～12月 1回目のコンサル後
指導対象	暴言  授業中
休み時間に 過ごす場所	個室(いたち部屋)
スクリプト	暴言が出た際, その場面にあった 望ましい言葉を考えて提示する
本人のチェック表	授業に参加できたら「○」

# ステップ1: 指導アイテム

ステップ1・2  
共通



# 指導開始前：本人への説明

## 指導を行う目的

ステップ1・2  
共通

ていねいな言葉

☒

☒

だれもみな、ていねいな言葉をつかうよう気をつけています。☒

職場でも、だいたい、ていねいな言葉を使います。☒

自分より年上の人にも、ていねいな言葉を使います。☒

なぜなら、ていねいな言葉は、相手をいい気持ちにさせるからです。☒

☒

でも、人は、思わず、らんぼうな言葉を使ってしまふことがあります。☒

そんなときは、ていねいな言葉でいいおせば、大丈夫です。☒

相手の人は、「まちがって言ってしまったんだな」とわかります。☒

☒

おれがていねいな言葉をつかっていると、☒

まわりの友達や先生は、☒

「〇〇君、大人なかんじがする」☒

「〇〇君、かっこいい」☒

「〇〇君と仲良くしたいな」☒

と思うようになります。☒

☒

☒

ていねいな言葉をつかえる俺は、かっこいい大人に近づいています。

だから、おれは、ていねいな言葉をつかってみようと思います。



# 指導開始前：本人への説明ルール①

「ていねいな言葉づかいをできる俺！！イケてる俺になろう」のルール

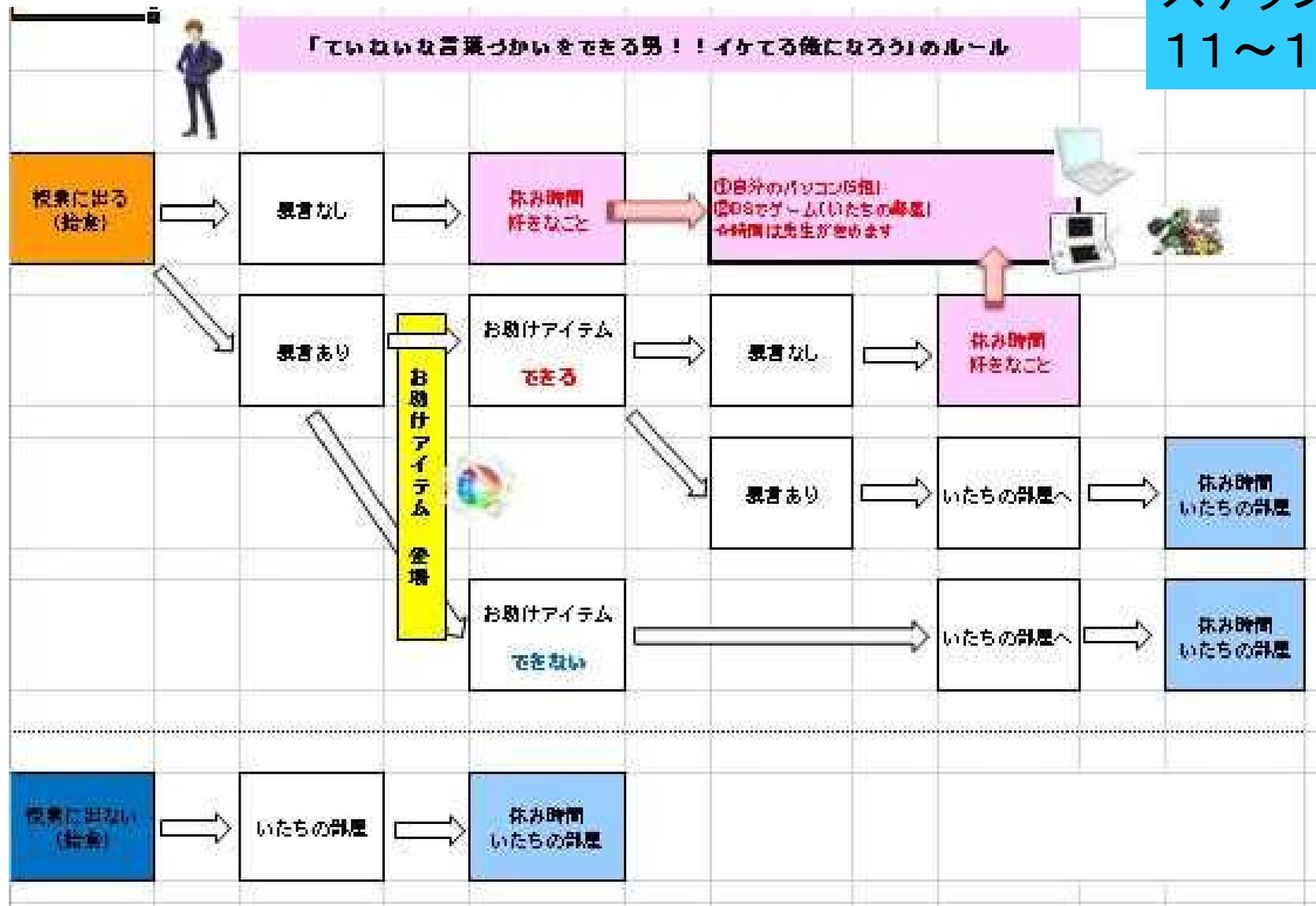
ステップ1  
11～12月

1. 登校後は、着替えと連絡帳が終わったら、たちの部屋へ行きます。  
〇〇君の教室は、たちの部屋です。1-5組の教室はつかいません。  
トイレ以外、許可なく、たちの部屋から出ることは、できません。
2. たちの部屋へ持って行けるものは、筆箱と授業につかうものだけです。  
ほかに、持って行きたいものがあれば、先生に聞きます。
3. 毎時間、授業の前に、「次の授業に出るかでないか」を先生が聞きにきます。
4. 授業が1時間終わったら、たちの部屋へ帰ります。  
作業Bなど授業がつづいている時も、1時間ごとに休み時間をとります。  
美術室や音楽室にいても、たちの部屋へ帰ります。
5. 授業に、出られたか、授業担当の先生に書いてもらいます。  
1日、全部の授業にでることができれば、放課後、スペシャルタイムがあります。  
すぐに帰っても、OKです。自分できめられます。
6. 先生がきよかした場合のみ、DSを学校で使えます。  
登校したら、担任の先生にDSを あずけます。  
帰る前に、担任の先生からDSを うけとります。



# 指導開始前：本人への説明ルール②

ステップ1  
11~12月



# ステップ1: 指導アイテム(スクリプト)

ステップ1  
11~12月

えなりかずき風スクリプト 記録

月 日 ( ) 校時: 授業 ( ) 記

入者:

スクリプト

言えた 言えない

# ステップ1: 指導アイテム(本生徒チェック表)

ステップ1  
11~12月

## 授業カード

全部の授業に出られたら、放課後、スペシャルタイムあり☆

「出られたら ○ をつける」



	11月30日	12月1日	12月2日	12月3日	12月4日
	月	火	水	木	金
1	代休	日生	日生	日生	日生
2		体力	体力	体力	自立
3		見学	造花	音楽	家庭
4		見学	造花	音楽	家庭
給食					
5		美術	造花	数学	スポ
6		美術	造花	スポ	国語
帰りの会					

## ステップ2:スクリプトの手続きを改善

	ステップ2
指導時期	1月8日～継続中 2回目のコンサル後
指導対象	暴言＋暴力(物にあたる)  授業中＋休み時間
休み時間に 過ごす場所	・各授業に参加できれば 個室or所属教室or特別教室  ・授業に参加できなければ個室
スクリプト	決まった言葉を提示する
本人のチェック表	暴言なし「◎」 暴言1回「○」

# 指導開始前：本人への説明ルール①

## 「ていねいな言葉づかいをできる俺！！イケてる俺になろう」のルールその2

1. 登校後は、着替えと連絡帳が終わったら、いたちの部屋へ行きます。  
1時間目が始まるまでは、いたちの部屋でまちます。
2. いたちの部屋へ持って行けるものは、筆箱と授業につかうものだけです。  
ほかに、持って行きたいものがあれば、先生に聞きます。
3. 毎時間、授業の前に、「次の授業に出るかでないか」を先生が聞きます。  
先生に「出るかでないか」を伝えたら、次の授業へ行くことができます。
4. 授業に、出られたか、授業担当の先生に書いてもらいます。  
◎か○がつけば、教室かいたちの部屋で好きな活動ができます。  
(教室では、自分のパソコンやCD。いたちの部屋ではDS)  
他の教室や廊下できゅうけいすることはできません。  
  
きゅうけいポイントがないときは、いたちの部屋へ帰ります。
5. 2時間授業が続いている場合、たんとうの先生の許可をもらい、その場できゅうけいすることができます。  
ただし、きゅうけい中、暴言や暴力がでた場合は、すぐにいたちの部屋へ帰らなければなりません。
6. 暴言はいたちの部屋で言います。
7. 先生がきょかした場合のみ、DSを学校で使えます。  
登校したら、担任の先生にDSを あずけます。  
帰る前に、担任の先生からDSを うけとります。  
DSを使うのは、いたちの部屋だけです。

ステップ2  
1～2月





## ステップ2: 指導アイテム(スクリプトの改善)

ステップ2  
1~2月

①

今のはつげん,  
取り消します

②

今,

ちりばこをかけた

こと, すみません

## ステップ2: 指導アイテム(本生徒チェック表の改善)

### 授業カード

全部の授業に出られたら、放課後、スペシャルタイムあり☆

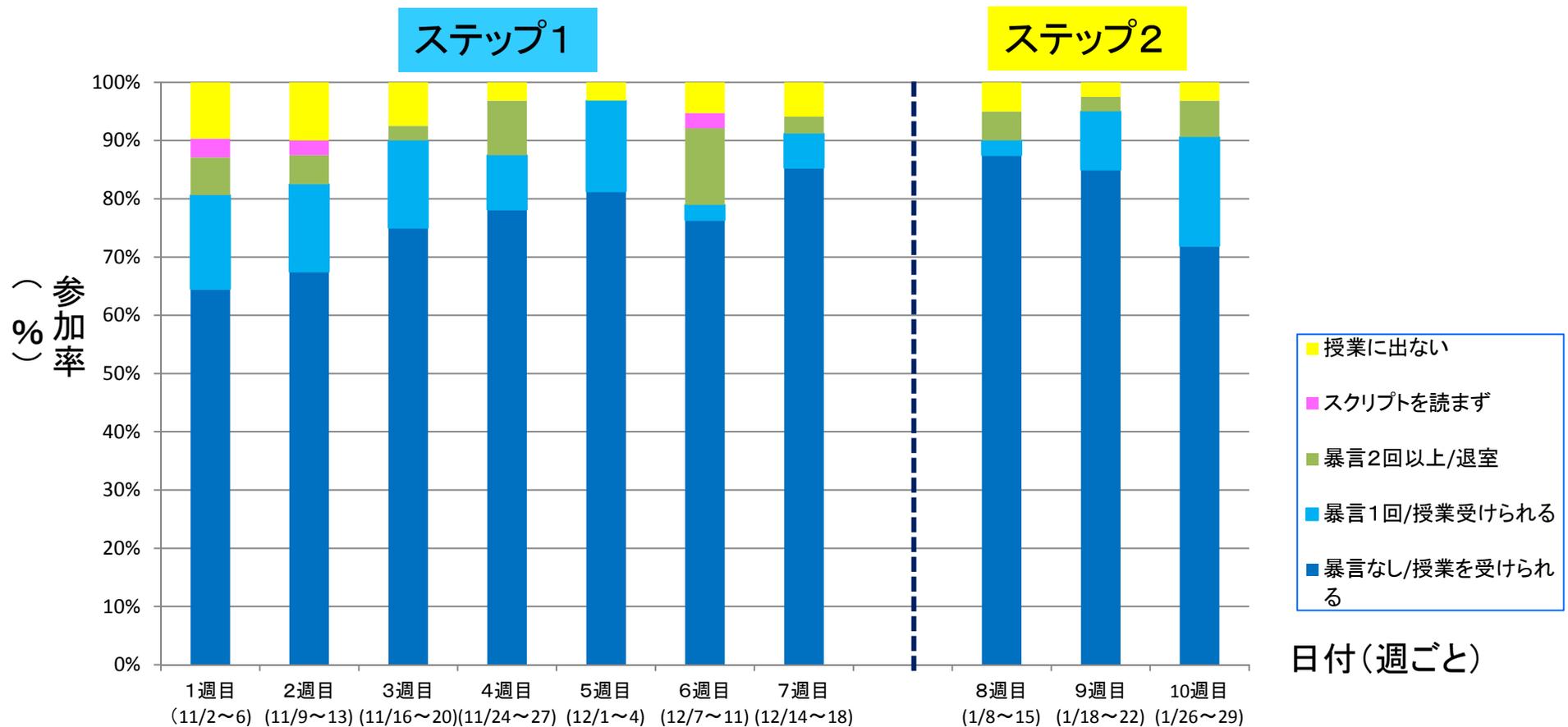
「カードなしで出られたら◎, カードありで出られた○をつける」

ステップ2  
1~2月

	11月30日	12月1日	12月2日	12月3日	12月4日
	月	火	水	木	金
1	代休	日生	日生	日生	日生
2		体力	体力	体力	自立
3		見学	造花	音楽	家庭
4		見学	造花	音楽	家庭
給食					
5		美術	造花	数学	スポ
6		美術	造花	スポ	国語
帰りの会					

# 指導の成果

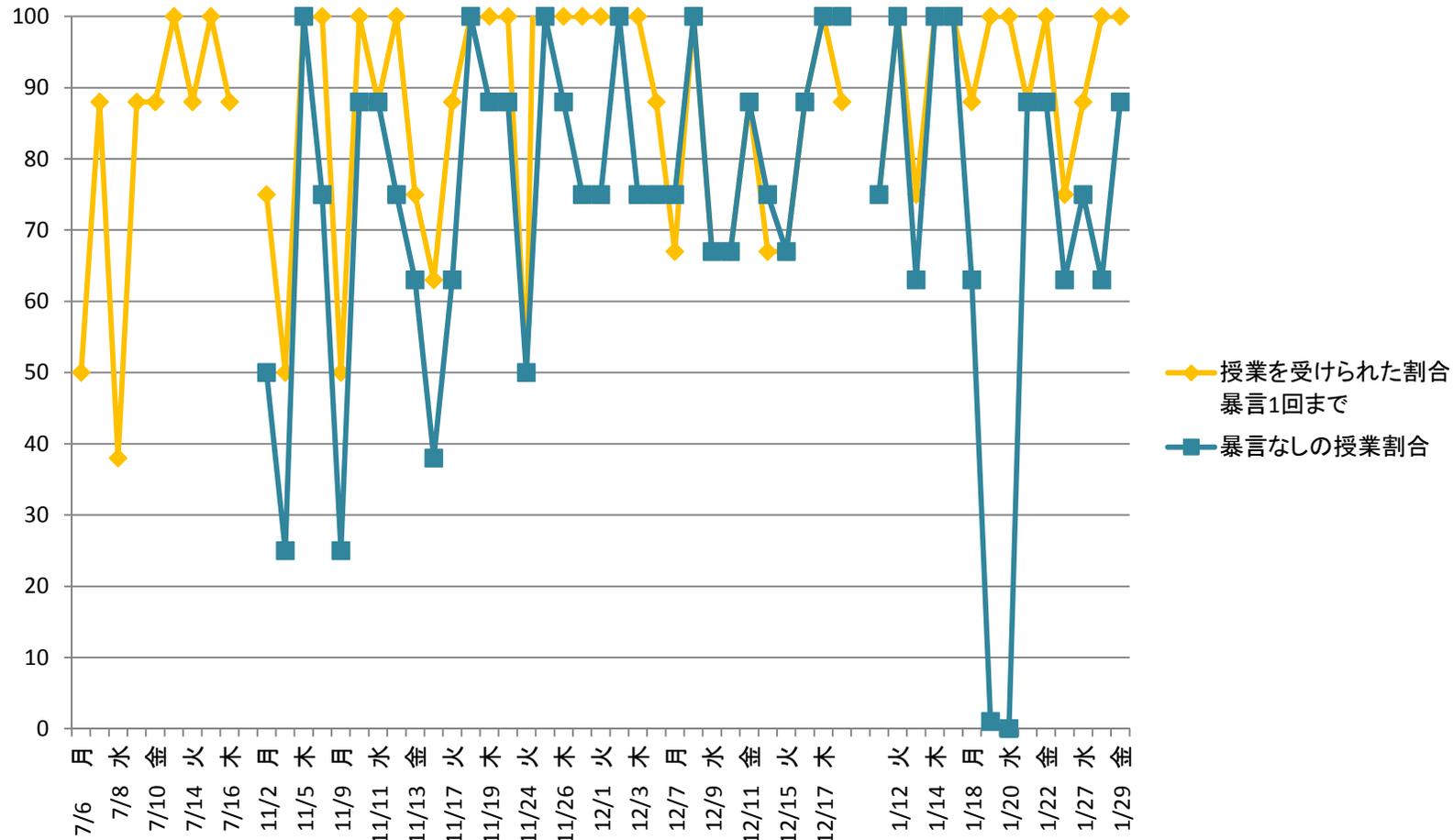
「これは暴言ですか？」という発言が増たり、言葉を選ぶ(考える)行動が出現し、好ましい言葉のバリエーションの拡大につながりました。



結果1: 授業参加率(週ごと)

# 指導の成果

暴言の継続時間が短くなり，切り替えが早くなりました。個室まで暴言を我慢する行動が出現しました。休み明けは，参加率が低下しました。



結果1: 授業参加率(日ごと)

# ここが成功のポイント



○授業参加への拒否が出ないよう、魅力のある授業になるよう授業内容を教員が工夫した。

○学年団の全教員が一貫して指導を行ったことが本人の成長を促している。

○記録をもとに教員チームで話合いながら授業を改善した。